



内分泌攪乱化学物質については、将来にわたって人の健康や生態系への影響が懸念されている一方、科学的には未解明な点が多く残されており、環境保全上重大な課題と考えています。このため、環境省では環境実態調査や有害性評価等を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関等との情報交換を進めています。

この一環として、平成10年度から毎年「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しており、世界各国から第一線の研究者のご参加を得て、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただいております。

本シンポジウムの主なねらいは、

- ・我が国をはじめ、世界各国の内分泌攪乱化学物質問題への取組状況についての情報を共有すること
- ・国際的な連携・協調により進められている内分泌攪乱化学物質問題について、これからの研究の方向性について議論すること
- ・化学物質問題を身近な問題として対応するために、各方面の関係者により意見交換を行うこと

の3点です。

今年度は、「子供への影響」に着目して、東京大学医学部産科婦人科学教室の堤教授による特別講演及びセッションを予定しています。

また、PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）に基づくデータの公表が本年末の目途であることから、「環境リスクコミュニケーション」についてパネルディスカッションを行うこととしております。

国内外で益々重要となる環境問題の解決に向けて、社会の各主体によるパートナーシップの構築と我が国のリーダーシップの発揮が一層求められる中、この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政、産業界、そして国民にとって意義のある会議となることを希望しております。

環境大臣

鈴木俊一